



STOP! 秘密保護法

1日も早い廃止を!

1月24日、「stop! 秘密保護法和歌山共同行動」が法の廃止を求める昼休みパレードを行い、私も議員団のメンバーと参加しました。

市役所前の玄関に面する広場で集合しそのあと、市役所から京橋までシュプレヒコールしながら歩きました。このパレードは、法案

が多く反対を押し切って強行採決されてから、もう数回行われており、各界の方が参加しています。今回ひとつ、残念なのは議員団

のメンバーの写真撮影に私がついていないこと。ちょうど、ニユースの打ち合わせでメンバーと離れて歩いたことで写真撮影の機会を逃してしまいました。次回は必ず、そして法の廃止を1日も早く!



早いもので、立春も過ぎ、2月も半ばになろうとしています。立春とはいえ暦上のことで、毎年のように寒波が押し寄せるのが

常。今年もその通りになりました。風邪やインフルエンザも流行りだしているとのこと。どうか、ご自愛ください。

2月25日からは定例議会が始まる予定です。毎年2月議会はテレビやラジオでの放送が行われるのですが、今回は大橋市長が夏の市長選への不出馬を早々に発表したため、当初予算への姿勢を代表質問で質したとしても、責任ある答弁が果たしてできるのかという疑問が出されました。したがって市長選が終了し、新市長が決定した後の質問を受けて、テレビ、ラジオ放送を行う予定です。詳細はまた、次号以降のニュースでお知らせします。

日本共産党

かとうなおと
加藤直人
です



2012年9月、橋本市に住む上田新(あらた)さんが、橋本市に対して電動車いすの支給決定を撤回したのは不当だと撤回の取り消しを求める訴訟を起こしました。原告の上田さん(25歳)は幼少時水没事故で重度体幹機能障害を負い、車いす生活を送っています。げんざい、施設では電動車いすで「運び作業」や車いすサッカーをしています。電動車いすを自由に操作することが楽しみです。2011年9月、古くなった電動車

1/24パレードには150名が参加しました。



※「めざす会」とは「自立支援法基本合意の完全実施をめざす会」の略。民主党政権時に「自立支援法」を廃止し「新自立支援法」を策定し障害者の尊厳を守ると約束したにもかかわらず、ほとんど内容が変わっていないことに対し、運動組織が立ち上げられた。

いすの買い換えを橋本市に勧められて申請しました。ところが、2012年3月、橋本市は一転して「走行に危険を伴う」「事故の際、市の責任が追求される」との理由で申請を却下。訴訟に至りました。

今年3月4日第8回弁論(証人尋問)、同7日第9回弁論(証人尋問)を迎えます。「めざす会」(※右枠参照)は移動の自由と生き甲斐を保障する橋本市いす訴訟を支援するため、新庁舎となった和歌山地裁での「証人尋問」傍聴に多くのみなさんが駆けつけてくださるよう呼び掛けます。



粗大ごみ受付センター 新番号は 475-7890

各自治会の回覧板でもお知らせがあったように、和歌山市民環境事業部収集センター北事務所が新しくなったことで、粗大ごみ受付センターが引っ越しました。それにより受付番号も変わりました。

受付時間 8:30~16:00

小型家電の分別収集も始まっています。これまで、一般ゴミに出していたヘアドライヤー、小型ラジオ、などの小型家電も分別して出せます。詳しくは収集センター北事務所

TEL 471-1503まで

東部後援会 バスツアーに 行きませんか

4月12日~13日、1泊2日で高知市に行きます。



皿鉢料理を楽しみながら先進の後援会活動を学びます。高知市のはた愛市議が迎えてくれます。詳しいことは改めて次号でお知らせします。

《行ってきます！》

2・15近畿総決起集会

消費税増税、社会保障の改悪など安倍政権の暴走はとどまるところを知りません。安倍内閣の暴走政治にストップを！という運動を全国規模へ広げるため2月15日大阪の御堂会館で「2・15近畿総決起集会」が開催されます。

この集会に和歌山県社会保障推進協議会がバス2台で取り組むこととなり、議員団からは私、森下さち子が参加します。



《視察に行きました》

1月24日、市内の中央終末処理場に建設されている国の事業「Bdashプロジェクト」を見に行ってきました。100%国の出資で応募していた和歌山市が選ばれたものです。下水道処理から出る汚泥をバイオマス発電に利用しようというもので、これから目指すべき自然エネルギーや循環型社会への新しい取り組みだということです。

この事業が実施された後、検証を経て、各自治体などで推進される予定ですが、国の費用負担など財政的支援が不可欠だと感じました。市議団も省水力発電などについて現在学習を進めています。



左から松坂議員、森下、南畑議員

全日本年金者組合和歌山県本部主催、和歌山県地評・和歌山県社会保障協議会共催で年金削減に反対する「年金の2、5%削減阻止 不服審査請求書提出和歌山県集会」に参加。(1/31太田第一公園)



新婦人若草班の班会で「フード・インク」というDVDを観ました。アメリカの食事情をシビアに描いた内容です。大企業が農家にお金を貸し、丸ごと企業の論理で支配していく様子がリアルに描かれていました。

特に背筋に寒いものが走ったのは、身動きできない鶏を飼育している場面です。通常の育ち方の3倍の速さで、そして3倍の大きさに成長させるため、その鶏は自分の体重を支えることができず、歩けば倒れるため、そのまま死んでしまう鶏もあります。少し前、BSEによって、アメリカからの牛肉の輸入を制限していた時に問題になったのは、本来牧草を食べて成長するはずの牛に共食いとも言える肉を混ぜた飼料を食べさせたことが牛を病変させる原因ではないかとの疑いでした。

そして、さらに考えさせられたのは、日本の食事情もアメリカとそんなに違わないのではないかとということです。私たちが毎日口にしているものもどんな環境で育ってきたものか、そしてその背景には何があるのかを知る必要性を痛切に感じました。機会があればぜひ、観ていただきたいと思います。

編集後記

●『フード・インク』(Food, Inc. 2008年の作品)は「食品の株式会社」の意味。アメリカの食品産業に潜む問題点に切り込んだドキュメンタリー。広大な農場に散布される農薬、遺伝子組み換え問題など、大量生産低コストの裏側にあるリスクを伝える●この映画はアメリカで大ヒ

ットしたそうだが、残念ながら日本では2011年にこちじんまり公開されるにとどまった●「日本で、アメリカでみんなが食べている『安くて、おいしい』食べ物にはあぶない秘密があった!」と始まる予告編をYou Tubeで見た。本編を観て「TTPP参加の恐ろしさをまざまざと見せつけられた」という感想もあった。(M)